

## 第9講「鳴門市人権地域フォーラム」8月22日 参加者感想

### ①鳴門渦潮高校 2年 AA

中学生、高校生には世界を変えられる力はないと思っていた。たかが学生数十人が集まつたところで何も変えられないだろうという考えが心のどこかにあったのだろう。しかし今日、自分よりも一回りも二回りも小さい中学1年生の言葉に心動かされて、今でもずっと胸に刻んでいるという先生の話を聞いたとき、僕の考えはどれだけ浅はかだったんだろうという思いになった。語り合うということは、心のうちを。本音を語り合うということは、男女、学生、社会人、生徒、教員関係なく、とてつもないパワーを持っているんだなと感じた。

### ②徳島商業高校 2年 NM

今回、フォーラムに参加して、時間の都合上発表はできなかつたので、発表しようかなと思っていたことを残します。吉成先生が私の話とかもしてくれたんですけど、お話の中に「舟を編む」の言葉が2つほど紹介されていて、思ったことがあります。「言葉は人とつながるためにある」と、「言葉は距離を越え、時を越え、大切な何かとつながる役目を見事果たしてくれる」なんんですけど、自分もこの小説(だったと思います!)を読んだときに、心に残っている部分で、人権学習もそうだなとすごく思ったんです。それを実感したのが中学生集会で、私の作文に似た体験したことあるよってマイクを持って話してくれてつながれたり、改めて言葉はマイクを持って話すことは大切なことだと気づかされました。それが、森口先生がおっしゃる「共感と連帯」「信頼と尊敬」につながるんだなと思わされました。自分が読んだことのある身近な本で気づかされるとは思ってなかつたです。これを機に、もう一度読もうかなと思っています。久しぶりにシンジさんの話を聞いたり、広瀬さんから初めてお話を聞けて、とても夏休みの締めくくりによかったなと思いました。